

第5回 コミュニティ・スクール推進委員会 (学校運営協議会) 議事録

平成 29 年 8 月 28 日 (月) 15 : 30 ~
東柏ヶ谷小学校 ランチルーム

1. 議事

(1) グループ・ディスカッション テーマ : 「こんな東柏っ子にしたい」

昨年の研修で意見を出し合い、話し合った「こんな東柏っ子にしたい」について再度 4 グループに分かれてグループ・ディスカッションを行った。

♡グループ : 話す・聞く力をつけることが社会に出たときのコミュニケーション能力につながる。学校・地域・家庭でできることをやっていく。具体的な案まで話し合うことができなかった。

◇グループ : 「自信」がキーワード。

◎自発的に取り組むできる子⇒そのためには子どもたちに自信を持たせることが大切となり、自信を持つことで将来の夢が持てたり、自分の考えを表現したりすることができる。また、自信を持つことで自ら挨拶をすることもできる。その一方で、大人が挨拶をできていないことがある。まずは親同士が挨拶を交わし合える関係づくりを学校と地域が協力して企画・実施していくべきだと考える。

◎命を大切にできる子⇒災害や動植物の生命について自分事としての意識が低下している。

♠グループ : 挨拶ができる子⇒自治会の方とすれ違った時に挨拶しあえるような関係。少しずつ褒めることでコミュニケーション能力アップに繋げていく。家庭内でも大人から子へ挨拶を行い、大人同士が挨拶し合うよう啓発していく。学校と地域が連携し、自治会行事の周知を図り、子どものためにも保護者も積極的に参加してほしい。しかし、家庭の事情や行事への参加により役員になることを恐れるといった実態もある。

♠グループ : 「地域を好きになる」がキーワード。

①家族以外の知り合いをつくる。子ども同士の繋がりから親同士の繋がりが持てるイベントの企画・実施。

②「あいさつ+一言」をすることで会話が生まれやすくなる。

③市民レクといったイベントに親に積極的に参加していただけるような周知・啓発を行う。

④地域の良さの再発見⇒地域について先生自身も知ることが大切ではないか。

⑤祭りの準備・計画に子どもたちが参画する⇒6年生が司会を務めることで自信に繋がったり、下級生からあこがれの存在になったり、自らもそうなりたいと参加への意欲につながる。

(2) 2学期の予定について

開かれた教育課程をもとに2学期にもコーディネーターを通じてボランティアを依頼していく。あくまでも予定であるため再度学年で時期、依頼人数等を吟味し依頼をかける。

(3) 新体力テストについて

今年度は10月19日に実施する。予備日は設けておりません。

ボランティアは70名を予定し、先に保護者ボランティアを募る。9月15日に募集を締め切り、集計後不足分を地域の方にボランティアとして参加依頼をする。